

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	保育課程論				
担当者氏名	八木 義雄				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・春期

《授業の概要》

平成30年には幼稚園教育要領、保育所保育指針等わが国の保育課程（保育のカリキュラム）は大きく改訂され実施されることになっている。本年度の保育課程論では、この新しい保育課程の主旨を理解することが肝要である。加えて子どもの年齢や発達を踏まえた保育課程の編成及び指導計画の作成のに関する一般的事項を具体的に講義する。

《授業の到達目標》

これからの時代に求められる保育及びそのカリキュラムの基本を学ぶために保育所保育指針等にもとづき、保育の計画作成上の留意点を踏まえ発達過程に応じた保育の指導計画が作成できるように具体的に指導する。また、保育実践記録の分析や検討等を行いながら一連のプロセスを通して保育の質が向上していくこと事が理解できるようにする。

《成績評価の方法》

平常点 10%、レポート提出・小テスト 40%、定期試験 50%

《テキスト》

テキストは使用しない。授業時間内配布資料によって代える。

《参考図書》

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領及び解説書。なお、平成30年版の要領、指針等については、シラバス作成時に未発表のため、授業期間内に資料として提供予定（ファイルにて提供可能）

《授業時間外学習》

本教科は2単位の科目である。大学設置基準では2単位科目には90時間の学修が求められている。1回の授業は2時間とされるため、15回の授業時間内の学修は30時間となる。したがって2単位に求められる90時間を充足するためには、授業での学修時間30時間を差し引いた60時間の授業時間外学修（授業1回につき事前事後学修4時間）が必要となる。

《備考》

上記に記した事前事後学修の課題については、各回の授業の中で指示するとともに、レポート、小テスト等を実施することによって求められる授業時間外学修時間の充足をはかる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバスの確認、本教科の意義、資料、ノート、評価、授業時間外学修等について認識する。
2	保育課程とは?	保育課程（保育カリキュラム）意義について学修する
3	わが国における保育課程の成立	幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園における保育課程の成立について学修する
4	わが国における保育課程とその歩み	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園 教育・保育要領の策定とその歩みについて学修する。
5	児童中心主義の保育課程	わが国の保育課程は、その理念において大きく二分される。その一つである児童中心主義の保育課程について学ぶ
6	系統主義の保育課程	わが国の保育課程は、その理念において大きく二分される。その一つである系統主義の保育課程について学ぶ
7	「領域」の意義	わが国の保育課程の特徴である「領域」の意義と役割について学修する。
8	「ねらい」と「内容」	同じくわが国の保育課程の特徴である「ねらい」と「内容」の意義と役割について学修する。
9	3歳未満児の保育課程（1）	3歳未満児の生命の保持と情緒の安定に係る保育課程、保育士との信頼関係を基礎としたほ乳、摂食、睡眠、排泄等への援助
10	3歳未満児の保育課程（2）	3歳未満児の発達を保障に係る保育課程、身体機能、象徴機能等の発達と遊び。
11	3歳以上児の保育課程（1）	3歳以上児の保育課程の類型とその意義。プロジェクト法、オープン保育、解体保育、タテワリ保育等について学修する
12	3歳以上児の保育課程（2）	集団保育に係る保育課程。集団の体制化をはかる保育課程を中心に学修する。
13	保育課程と指導計画	保育課程の指導計画への展開について学修する。
14	義務教育及びその後の教育と保育課程	小1プロブレム等をきっかけにして関心が高まっている幼保・小連携の重要性について学修する。
15	まとめ	多岐にわたる保育課程の学修を総括し、あらためてその意義と重要性を理解する。